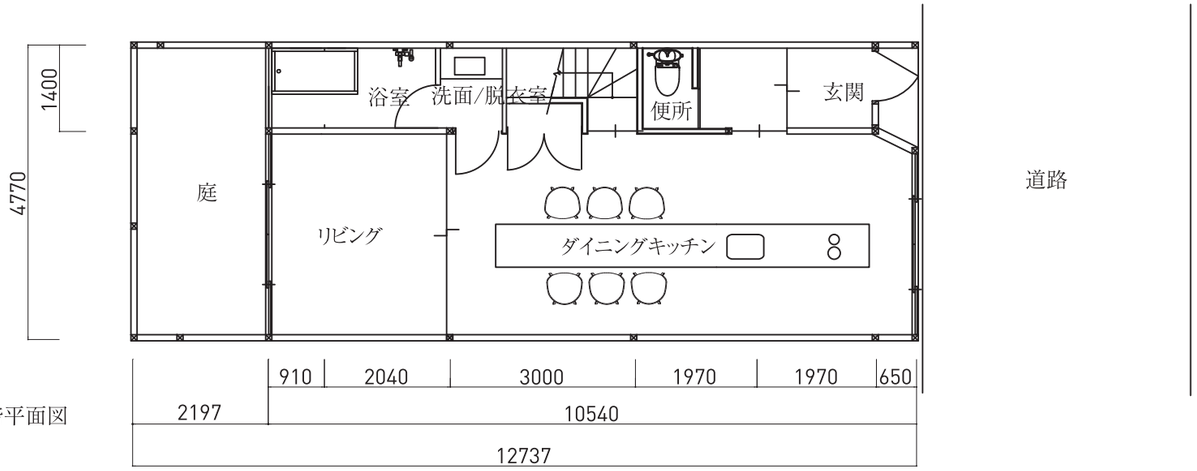
まちのキッチン

まちと、町家と、世界をつなぐ、長いキッチン

京都市中心部に建っているにも関わらず、10 年以上空き家のまま放置されていた築 70 年以上の京町家を改修したプロジェクトです。
ゆくゆくは住まいとしての活用をしますが、現在はゲストハウスとしての利用が主です。ただし、まちに対して閉じてしまうのではなく、日本各地の食材生産者が食材を使った料理でじっくりとプレゼンテーションをしたり、まちのイベントで開放したりすることを想定しています。

そのため、建物の内部空間は、6m もの長さを持つ、長いカウンターキッチンを中心に構成しています。
長年放置されていた空き家を人と人とのコミュニケーションの要となるキッチンを軸として改修したことは、1 つの建物の中での暮らしを豊かにするだけでなく、まちの人たちの暮らしを豊かに変える提案でもあると考えています。



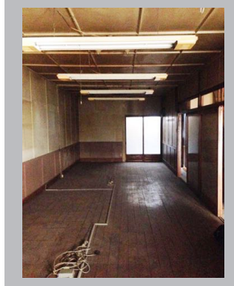
1階平面図

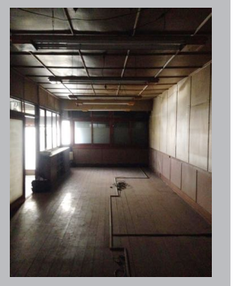
内観

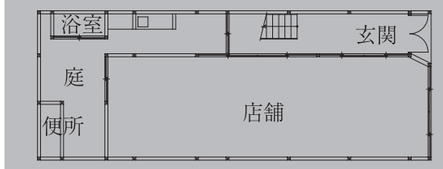
内部の壁を漆喰で仕上げることで、明るくあたたかに、キッチンカウンターは研ぎ出しで仕上げることで、シンプルなデザインかつ素材感のある空間となりました。漆喰や研ぎ出しを採用したのは、伝統的な左官技術の新しい見せ方への試みでもあります。

改修前

元は薄暗くジメジメとした印象でしたが、店舗として使われていたこともあり、大きな空間とまちに対する開き方が特長でした。







1階平面図

外観

歴史あるまちなみの中で、これまで引き継いできた既存の外観はなるべくそのまま残すことにしました。このことによって、元の建物が持っていた、開きすぎず、閉じすぎない、絶妙のバランスを引き継ぐことができ、キッチンでのアクティビティがまちに伝わるような改修となりました。